

2005年8月3日

大阪市長 關 淳一 殿

社団法人日本建築学会  
会長 村上 周三

大阪中央郵便局庁舎保存要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の活動につきましては、多大なご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、日本郵政公社におかれましては、大阪中央郵便局庁舎（1939年竣工）と東京中央郵便局庁舎（1931年竣工）の取り壊しを計画しておられる旨うかがっております。このうち大阪中央郵便局庁舎の取り壊し計画につきましては、大阪市の都市計画事業との関係から進められているとのこととあります。

ご承知のように、大阪中央郵便局庁舎の建物は、日本近代を代表する建築家・吉田鉄郎（1894-1956）の傑作として有名なもので、戦前の日本における近代建築の代表例として、建築史上高く評価されていることから、本会では先般、大阪、東京の両中央郵便局庁舎建物の保存要望書を7月26日付けで総務大臣ならびに日本郵政公社総裁あてに提出いたしました。

この大阪中央郵便局庁舎と東京中央郵便局庁舎は、以下の点で保存すべき建物と考えられます。

1) 戦前の日本における近代建築の中でももっとも優れた建築のひとつである。

大阪中央郵便局庁舎と東京中央郵便局庁舎は、大阪と東京の「中央郵便局」としてそれぞれと大阪駅（梅田駅）前と東京駅前の1街区を占有するかたちで建設されました。窓口業務だけでなく、郵便や小包の集配・仕分け業務、現業員の宿直・厚生施設、オフィスという複合業務に対応することを意図して計画されたものです。駅に隣接しているのはそれに対応するためですし、集配のためにトラック輸送の便を考慮しているのもそのためです。それらは、いわば裏まわりの機能ですが、それだけではなく、一般向けの窓口業務があり、しかも「商都」と呼ばれた経済都市大阪と「帝都」と呼ばれた首都東京のそれぞれの駅前に建つ「中央郵便局」ということで、威厳の表現も求められたと思われます。

当時過去の建築様式を使って立面を整える方法が有効性を失いはじめ、その一方で、やがて20世紀の建築の主流になる近代（主義）建築がヨーロッパから導入されはじめていました。このような威厳重視のフォーマルな建築を設計する場合、そのどちらを採用するかについては議論の余地があり得ましたが、設計者の通信省経理局

営繕課（担当：吉田鉄郎）は、最新のデザインを選択しました。それは前例がほとんどない点で困難をともなう選択でしたが、吉田鉄郎は、それを克服し、細部まで神経の行き届いた巧みなデザインでまとめ上げました（詳細は別添の「見解」参照）。どちらも竣工直後から、当時の建築家に絶賛されています。それは近代（主義）建築によって、威厳を巧みに表現して見せたと評価されたことによるものです。東京中央郵便局が竣工して1年半後に来日したドイツの建築家ブルーノ・タウトが、この建物を日本の新建築の代表として高く評価したことはよく知られております。その後も、この2つの建物は日本の近代建築史の中では、戦前を代表する傑作として高く評価されてきました。

2) 日本近代の代表的建築家・吉田鉄郎の傑作である。

東京中央郵便局庁舎と大阪中央郵便局庁舎は逓信省経理局営繕課が設計しました。逓信省営繕課は当時の日本の建築界をリードした有名な設計組織で、近代（主義）建築を日本に導入するのに主要な役割を果たしました。吉田鉄郎は、山田守（1894-1966）と並んで、その設計陣のリーダーで、当時の日本の建築家たちが称賛する建物を数多く設計しました。その作風は、機能を重視し、本質的な要素だけで立面を構成し、細部まで破綻のないデザインにまとめ上げるというもので、全体に、シンプルで、気品を感じさせる立面を特徴とします。

また、ドイツ語に堪能であり、学識の深さでも知られ、日本の建築文化や庭園について、ドイツ語の著書による海外への日本文化紹介のパイオニアでもありました。その性格の高潔さとあいまって、建築界から深い尊敬を集める存在でした。

東京中央郵便局庁舎と大阪中央郵便局庁舎がその吉田の代表作であるのは、衆目の一致するところです。

3) 駅前の景観を構成する重要な要素になっている。

東京中央郵便局庁舎と大阪中央郵便局庁舎は、「帝都」や「商都」の顔としてつくられ、その後駅前景観を構成する重要な要素になっています。それは、昭和初期を偲ばせる貴重な建物であるとともに、駅前景観がどうあるべきかについての示唆を与えてくれる貴重な事例としての存在意義も両建物には認められます。

以上のことから、貴下におかれましては、東京中央郵便局庁舎と大阪中央郵便局庁舎の文化的意義と歴史的価値についてあらためてご理解いただき、このかけがえのない文化遺産が永く後世に継承されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。なお、本会はこの建物の保存に関して、できうる限り協力させていただく所存であることを申し添えます。

敬具